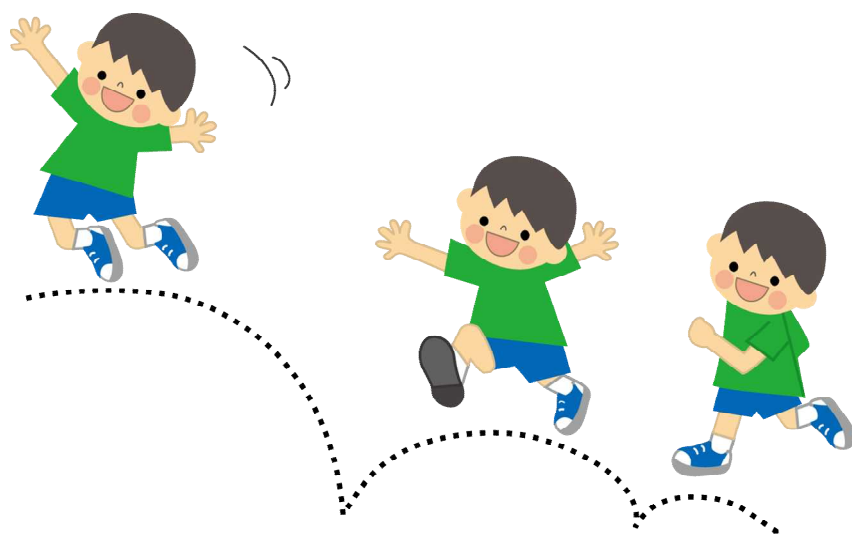


元気の出る

特別支援学級 担任のための手引（実践編）



平成26年4月

鳥取県教育委員会 東部教育局

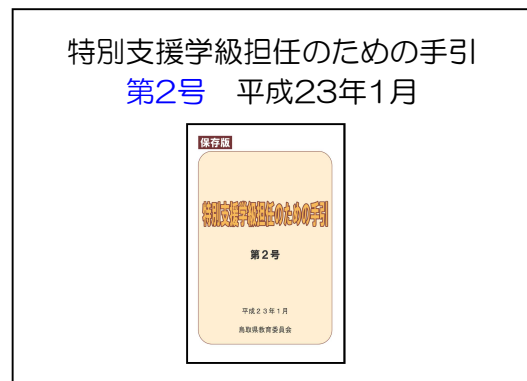
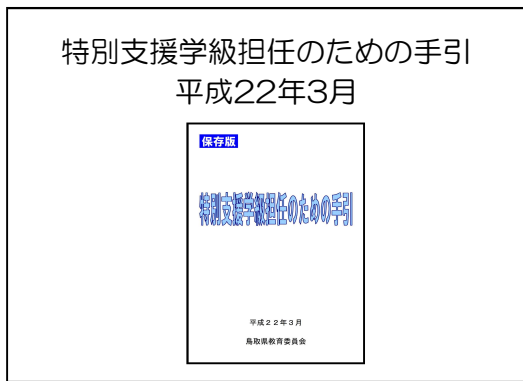
はじめに



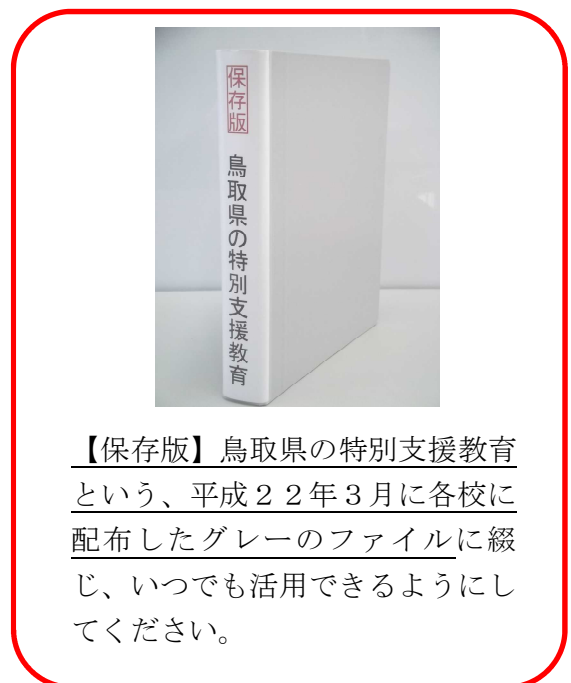
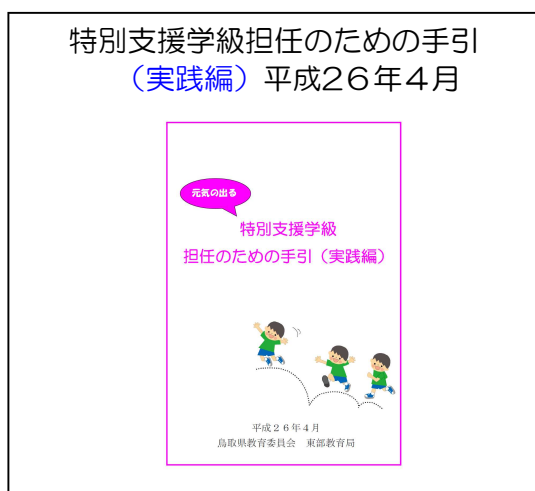
東部教育局では、特別支援学級を訪問し学級の経営状況を伺ったり、教育課程編成等に関する相談会を行ったりしています。その中で「子どもの実態把握をどのようにすればよいのか」「どのような支援が必要なのか」「どのような教育課程を編成すればよいのか」「自立活動はどのような内容をすればよいのか」などの、先生方の様々な悩みを聞くことができました。

そこで、東部教育局では、特別支援学級の先生方の様々な悩みにお答えできないかと考え、特別支援学級の基本的なことやポイントをまとめ、この『元気の出る 特別支援学級担任のための手引（実践編）』を作成しました。

鳥取県教育委員会では、これまでに特別支援学級に関する以下の手引を作成しています。



本手引（実践編）は上記の手引を基本として、先生方の悩みに分かりやすくお答えできるように、適切な指導や必要な支援の充実、学級づくりのための参考資料等を示して具体的に説明しています。上記2冊の手引と合わせてご覧いただき、特別支援学級の経営にぜひお役立てください。



【保存版】鳥取県の特別支援教育という、平成22年3月に各校に配布したグレーのファイルに綴じ、いつでも活用できるようにしてください。



東部教育局のホームページからダウンロードし、ご活用ください。
※印刷の際は、両面印刷してください。

1 特別支援学級を担任する先生方へ



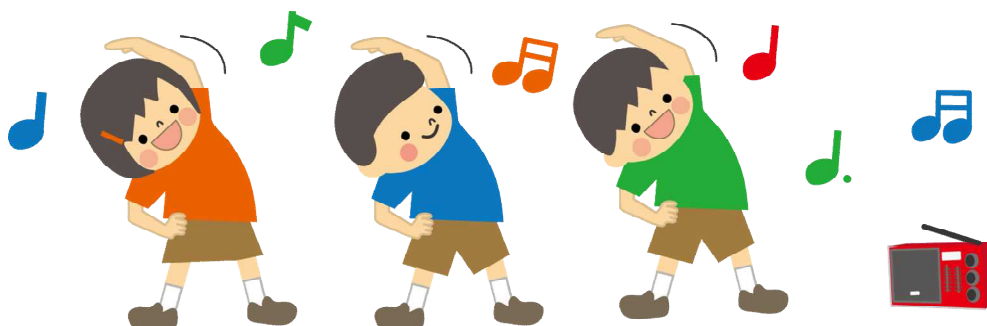
特別支援学級へようこそ

特別支援学級を担任する先生方、ようこそ特別支援学級へ。

特別支援学級は障がいのある子どもたちが、個別に、自立と社会参加に向けて学習する場の一つです。また、一人一人の実態をていねいに見取る、ニーズを把握し一人一人に合わせた適切な支援を行うといった特別支援教育の核となるところです。先生方の取組によって、子どもたちはいきいきと学校生活を送ることができるようになるでしょう。

しかし、初めは「特別支援学級の子どもたちはどんな子どもたちだろう」「どのように教育課程を編成すればよいのだろう」「なぜ自立活動が必要なのだろう」など、様々な不安や疑問があるかもしれませんが、そのようなとき、一人で抱え込まないでください。特別支援教育は一人で進めるのではなく、学校体制で取り組むことによって効果が上がります。

この手引（実践編）を参考にしながら、ぜひ学校体制で支援を進めてください。その際、保護者や専門機関と連携しながら進めることも大切です。





専門性を身につけましょう

特別支援学級は、様々な障がいのある子どもたちが学ぶ場です。

- 知的障がい ○肢体不自由 ○病弱・身体虚弱 ○弱視
- 難聴 ○言語障がい ○自閉症・情緒障がい

先生方は、これらの障がいについての正しい理解と指導・支援の専門性を身につける必要があります。そのためには次のような方法があります。

- ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編を読む
 - ・関係機関との連携を図りながら指導・支援の方向性を検討する
 - ・特別支援学校が開催している研修会へ参加する
 - ・特別支援学校に依頼し、指導・支援についてアドバイスをもらう
- 一人で抱え込まないで、一緒に学んでいきましょう。

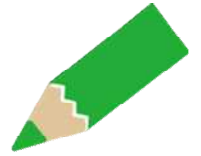
校内体制づくりを進めましょう

児童生徒が学校で安心して過ごし、持てる力を最大限に伸ばすためには、学校全体で特別支援学級の教育活動を推進する体制を作ることが大切です。

- ・児童生徒の実態を適切に把握する
- ・自立と社会参加に向けてどのような力をつけることが必要かを検討する
- ・適切な教育課程を編成する
- ・指導支援の方針や方向性を決める
- ・進路に向けての相談や支援を進める
- ・問題が起きたときには迅速な対応をする

これらのことをチームで取り組むよう、校内体制づくりを進めることが大切です。校内委員会等で話し合えるように計画しましょう。

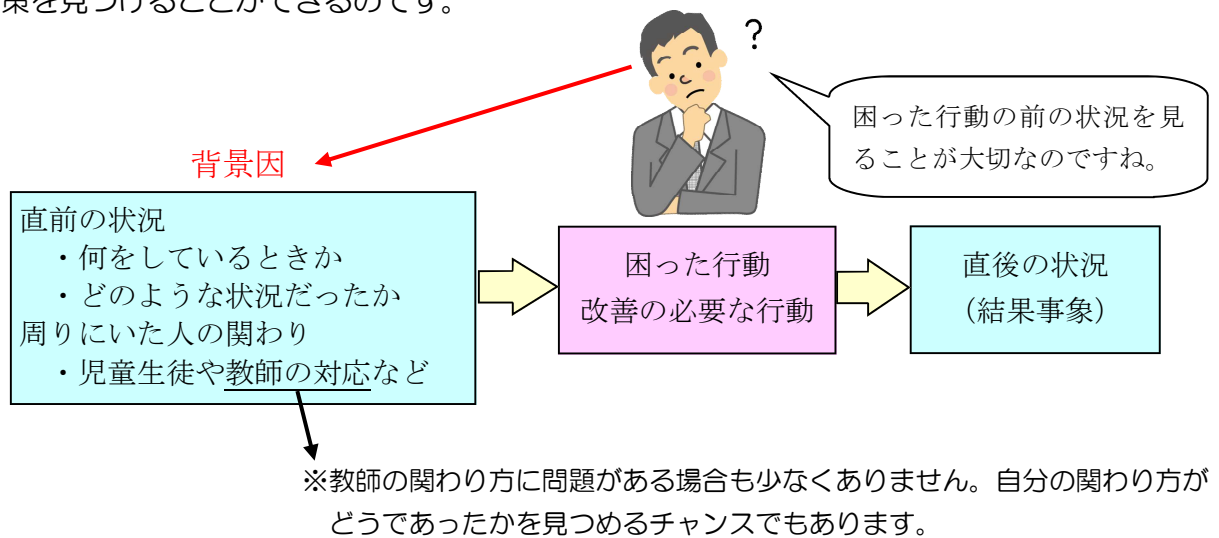
2 指導・支援の充実に向けて



特別支援学級は、すべての子どもたちが自分の力を伸ばし輝くために、一人一人の実態把握をしっかりと行い、個を伸ばすための有効な指導・支援が実践され、それらを校内に発信する場でなければなりません。次の視点で指導・支援を見直してみましょう。

○行動分析をもとに、支援を検討する

子どもの困った行動や改善の必要な行動には何か理由があるはずで、行動上の問題は、本人だけに注目しているだけでは解決することが難しいものです。困った行動の直前の状況や、その行動を引き起こす要因は何かを考える「行動分析」を行います。そうすることで、子どもの立場に立って解決策を見つけることができるのです。



行動分析の方法について、例を挙げて簡単に説明します。

■初めの対応

Aさんは、授業中に離席して掲示物を張り替えたり棚の本を整頓したりしていました。先生は、Aさんのことを「離席し、まじめに授業を受けない子ども」と捉え、しかりました。

■改めて行動分析をした結果

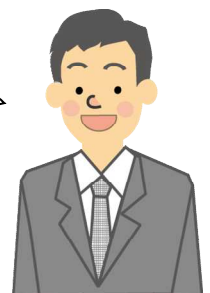
直前のAさんの状況・・・「課題が終了し、することがなく退屈になっていた」

背景因・・・「担任は教室の片付けが苦手で、掲示物も曲がったまま貼っていることがあった」
「Aさんは教室がばらついていると落ち着いていことができなくなり、片付けたくなるが多かった。」

■改善策

担任は、今何をするときか、次は何をするのかという予定を示し、授業に見通しがもてるようにしました。また、教室の片付けを行い、整頓された居心地のよい教室環境に心がけるようにしました。

Aさんは、授業中に何をすればよいか分からなくて困っていたことが分かりました。教師として、何をすべきか考えるヒントになりました。





○子どもの気持ちに寄り添う

子どもの「困った行動や改善の必要な行動をせざるを得なかった」その気持ちに寄り添いましょう。「〇〇さんも、つらかったんだね」「こんなことで困っていたんだね」というように子どもの立場を理解して声をかけます。その上で「先生はこうしてほしい。」という気持ちを伝え、どうしたらよいか一緒に解決策を考えましょう。

○子どものよさを生かして伸ばす

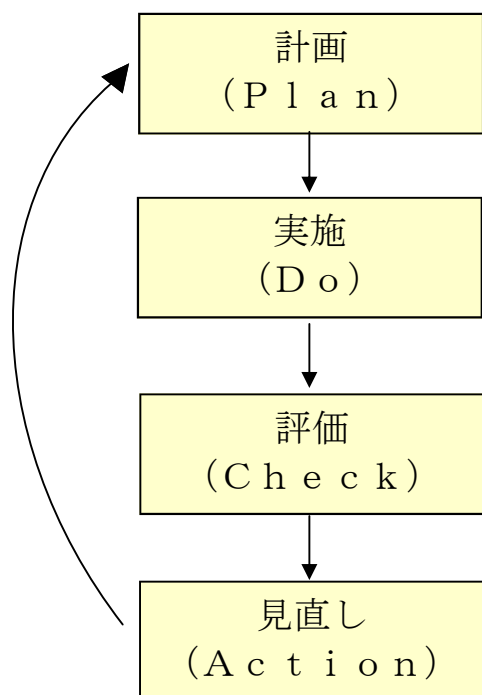
子どもたちの苦手な部分ばかりが気になり、「あれもできない」「これもできない」と思い悩むこともあるかもしれません。

そんなとき、少し発想の転換をしてみましょう。「〇〇をしているときは楽しそう」「これができる」というように、好きなことや得意なことに目を向けます。これらをさらに伸ばすことによって達成感や成就感が生まれ、さらには苦手なことにも取り組んでみようとする意欲を高めることにもつながります。

ぜひ、子どものよさを生かして伸ばすための工夫をしましょう。

○個別の指導計画に基づいて指導・支援する

子どもたちの支援を検討したら、個別の指導計画に記入し、支援を行います。支援をしてみて有効ならば支援を継続します。そして目標に向けて、小さな階段を一段一段上がるように、できることを増やしていきます。支援があまり有効でなければ支援を再検討します。つまり、PDCAのサイクルを大切にするとということです。



教師は、思いつきで子どもの支援を行うのではなく、左の図のように計画に基づいて支援を積み重ねなければならないのです。

自立活動においても、日々の学校生活・学習時間においても、指導計画に基づいて支援することを心がけてください。



3 学級環境の整備



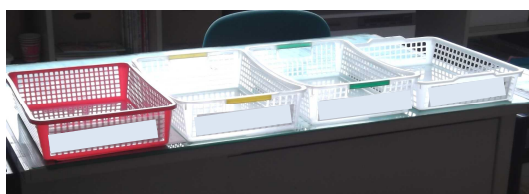
教室は学校生活の拠点となる場所です。子どもたちの実態に合わせて、安全・安心で過ごしやすい教室にしましょう。

○あたたかみのある教室にする

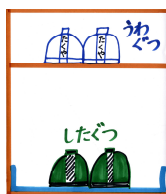
- ・学習した内容や作品等を掲示したり、活動の様子を写真を貼ったりして、活動の足跡が分かるようにしましょう。

○物の置き場所を決め、すっきりと整理整頓された教室にする

- ・ロッカー、下足、棚、引き出しなどは、どこに何を置くかを決めます。
- ・必要なものを、自分で取り出したり片付けたりできるようにすることが大切です。
※見て分かる支援をします。（絵や写真などで見本を示す。マーク、色、番号などをつけて、どこに何があるか示す。）



宿題を提出するかご



靴の入れ方



引き出しの中の整頓



学習用具の整頓

○危険な道具や安全面の管理

- ・はさみやカッターなど危険な物は、児童の実態に合わせて保管場所を検討します。
- ・教室の中に危険な箇所はないか安全点検をします。



○見通しをもって、自分で行動できるようにする

- ・1年間、月、週、今日など、分かりやすくスケジュールを示します。
- ・学習の流れ、活動の流れなど、すべきことが何か分かりやすく示します。

きょう がくしゅう 今日の学習		
名前	ほしよ	名前
1	じりつ	国語
2	こくご	算数
きゅうけい		
3	たいいく	理科
4	せいかつか	学活
きゅうしよく ひるきゅうけい そうじ		
5		図工
6		

今日の学習予定



給食時計



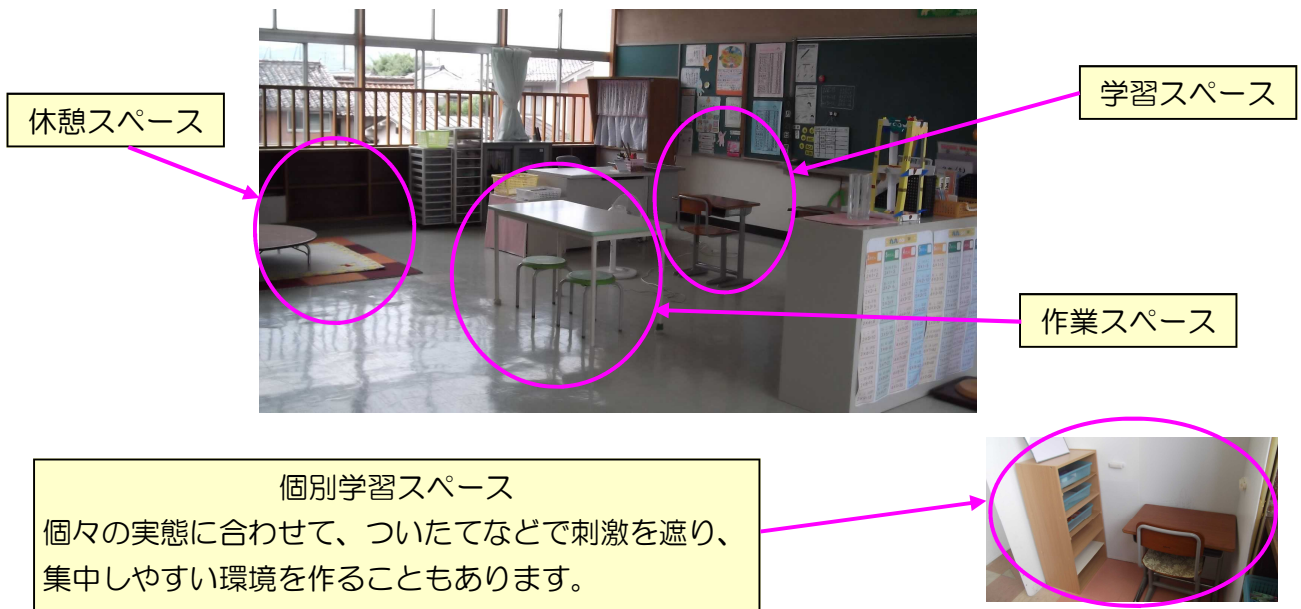
体操ズボンのたたみ方



体操服のたたみ方

○場所と活動の意味を一致させる

- 教室は、学習したり休憩したりするなど、いろいろなことに使います。しかし「変化することが苦手、切り替えることが苦手」という子どもにとっては、同じ場所で様々なことをすると混乱を引き起こすことがあります。
- 児童生徒の実態によって、教室をいくつかのエリアに分けて使うことが考えられます。



○児童生徒の実態に応じて、教室環境に留意する

【視覚障がい】

- 歩行の妨げになる物を置かない
- 模様替えをしたときは、知らせる
- 適切な採光に気をつける

【聴覚障がい】

- 音が響きにくい環境にする
(いすにテニスボールをはめるなど)

【知的障がい、自閉症情緒障がい】

- 整理整頓をする
- どこに何があるかを示すラベルや写真
- 気が散らないようにすっきりとした掲示

【肢体不自由】

- 移動しやすいように、床に物を置かない
- 車いすや杖を置く定位置を決める
- 物の出し入れがしやすいようにロッカーの高さなどに配慮する
- 机の角など危険な箇所にカバーをする

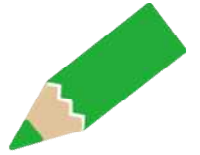
【病弱・身体虚弱】

- 身体を休めることができる場の設定



まず、児童生徒が安心して過ごせることが大切ですね。休憩時間などに、交流学級の友達が遊びに来やすい雰囲気や、学級の様子が分かる掲示が工夫されているとよいですね。

4 学級経営のポイント



学級経営とは、どのように学校教育目標の具現化を図るかということです。そこには、児童生徒の実態や願い、保護者の願い、そして教師の願いも込められていきます。この1年、どのようなことを大切に学級経営したいのかしっかりと考えてください。ポイントを示しますので参考にしてください。

○友達とよりよくつながるための言葉や話し方を学び、習慣化を図る

(例)

- ふわふわことばを使おう
- 声の大きさに気をつけよう

ありがとう、うれしいよ、
がんばってるね、すごいね！
だいじょうぶ？ドンマイ！



○相手の気持ちを考える学習や、自分の気持ちに気づく学習を取り入れる

(例)

- ソーシャルスキルトレーニング
- 場面絵などを使った状況把握
- ストレス度チェック
- ストレス解消方法の検討

友達が怒っているみたい。
なぜ怒ってしまったのかな？
ぼくが何か悪いことを
しちゃったのかな？



○聞き方・話し方を意識した取組を進める

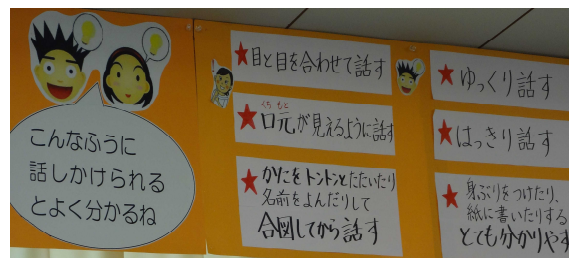
(例)

【聞く】

- 話す人を見て
- せすじを伸ばして
- うなずきながら
- 最後まで聞く

【話す】

- 相手を見て
- 相手に聞こえる声で
- 言葉遣いを考えて
- 考えをまとめて



E

教室の中での教師の言葉遣いや友達同士の言葉遣いは、児童生徒のコミュニケーション能力に大きな影響を与えます。少人数だからといってなれ合いになることのないように、児童生徒が場に応じた言葉遣いができるようにします。自分の思いを最後まで言えるような雰囲気作りも必要です。